

# 質の高い幼児教育・保育とは！？

—夏の如く、百草の個性を伸ばす—

《土にふれる、水にふれると五感が豊かになる！》

園長 山崎立哉

3. 4. 5歳児の子ども達は、先月20日に泥んこ遊び、27日に田植えを行いました。年少児は、田んぼに入るのは初めての体験で恐る恐るという感じでしたが、いざ田んぼに入ってみると、土のぬるぬるとした感じや水の生温かさに触れて、とても興味津々といった感じで喜んでいました。子ども達のなかには、「気持ち悪い！嫌だ！」と入らない子もいました。やはり、初めての体験は不安な子が当然います。年中児は、皆田んぼに入ることが出来てとても喜んでいました。田んぼに居るアメンボやタニシを見つけたり、泥をつかんで先生やお友達に投げたりして遊び、泥んこ遊びを楽しんでいました。年長児は、田んぼに入るのは3回目で、まったく不安な様子はなく、田んぼに入るとそのまま一目散に走って行く子や、田んぼの中に寝転がって楽しむ子や、友達と泥投げ合戦をして楽しむ子など、皆泥んこ遊びを満喫していました。

6月からプール遊びも始まり、天気の良い日はプールで水遊びを楽しんでいます。子ども達はプール遊びが大好きで、暑い日は冷たい水と遊ぶのが一番気持ちいいようです。また、雨の日は、かっぱを着て傘をさして雨の日の散歩も楽しみました。アジサイの花やカタツムリなど、雨が降るときれいな花や元気になる生き物と触れ合い、増々興味も深まっているようでした。

このように、子ども達は梅雨の時期ならではの体験を楽しんでいます。この「土にふれる」「水にふれる」体験は、五感を刺激し発達させ豊かにしていきます。五感が発達すると、発想力や直観力などのアイディアがひらめく、危険を回避する能力が身につく、相手の気持ちを思う力が身につくなど、子ども達が生きていく上で欠かせない情緒的な感情を豊かにしていくのです。土や水など自然に触れることで、幼児期の五感を鍛え、豊かにしていくことで生命力あふれる人間になって行きます。

ご家庭でも、出来る限り自然に触れ、五感（視覚・聴覚・嗅覚・味覚・触覚）を豊かにして頂きたいと思います。自然に触れることは大変良いことですが危険が伴います。私たち大人は、子ども達と楽しみながらもくれぐれも安全に気を付けて見守りを怠らないようにしていくことが一番大事なことです。